

魔法の宿題 プロジェクト 活動報告書・1

報告者氏名: 正木生子

所属: 高知県立高知若草養護学校

記録日: 2016年2月12日

キーワード: 肢体不自由 教科学習 自己理解 コミュニケーション

【対象児の情報】

○ 学年 高等部3年

○ 障害名 脳性まひ

○ 障害と困難の内容

- ・筋緊張のため、いす座位姿勢では下肢が左に傾き、上体も左に傾くことが多い。
- ・筆記や作業など右手で行っているが、筆記等には時間を要する。
- ・視機能アセスメントでは、目と手の協応、図と地の弁別、視覚運動動作などが苦手であった。
- ・資料等の整理が苦手で、必要なものを探すことには時間がかかる。
- ・高等学校に準ずる教育課程で学年相応の教科学習を行っている。
- ・平日は寄宿舎を利用している。

【活動目的】

○ 当初のねらい

- ・授業内容の理解と定着を図る。
- ・自分にとって分かりやすい学習方法を理解し他者に伝えることができる。
- ・自分の考えや意見を、正しく述べることができるようになる。

○ 実施期間

2015年5月20日(水)より2016年2月10日(水)

○ 実施者

宮崎貴文、筒井伸、森光平、川村紀美、岡崎道生

○ 実施者と対象児の関係

教科担当者、担任(数学A:週2時間、総合的な学習の時間・自立活動:週3~4時間、現代文B:週3時間、コミュニケーション英語II・英語会話:週4時間)、寄宿舎指導員

【活動内容と対象児の変化】

○ 対象児の事前の状況

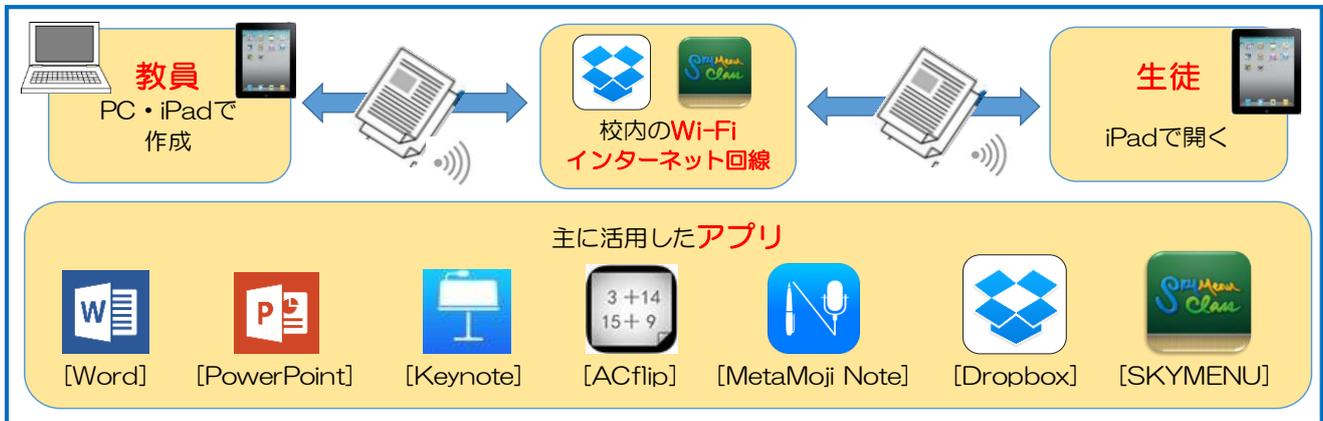
- ・昨年度「魔法のワンド」の取組で大幅な学習環境の改善を行い、iPadの活用など生徒の困難を軽減するための配慮がなされている。筆記量を大幅に軽減したことで考える時間が確保でき、積極的に授業に参加し、発言や生徒間での意見交換が活発になった。また、テキストや資料等をデータ化して配付することで必要なものがひとつに集約され探しやすくなり、時間と労力の短縮につながっている。
- ・学校外では自分のスマートフォンを使い、必要に応じてSNSを利用している。
- ・学習環境に関することなど、自分の考えや思いを大人に伝え、要求することを遠慮してしまう。

○ 活動の具体的内容

① 学習に活用（昨年度から継続）

教科学習に関しては、数学 A、現代文 B、コミュニケーション英語Ⅱ・英語会話の全時間で実施した。昨年度の取組に引き続き、板書やプリントの作り方を確認、iPad のアプリを使って教材提示や資料配付、アンケートや話し合いで生徒の意見を取り入れることに取り組んでいる。

- ・教材提示や資料の配付には、「SKYMENU」「Dropbox」を活用。主に活用したアプリは「MetaMoji Note」「AC Flip」。「Keynote」などである。〈図 1〉



〈 図 1 iPad の活用方法と活用したアプリ 〉

② 自己理解・他者理解に活用

総合的な学習の時間や自立活動の時間に、自己理解を深めることに取り組んだ。教員は、作成した資料やワークシートを「Dropbox」に保存し、生徒は自分の iPad を使って、主に「MetaMoji Note」で開いて入力保存する。希望進路先への志望理由書のなかで、自分の長所短所について考え、将来について考えた。

- ・文章の内容について検討し、発表のためのスライドを作成する。
- ・自分自身について考えたことや発表したことを、進路に向けた面接に活かす。
- ・練習にはカメラ機能を使って撮影、動画再生し、クラスメイトで意見交換して改善していく。

③ 「LINE」の活用

メンバーを限定したグループで気軽に連絡を取り合えるようにした。

- ・事前にセキュリティやマナーについて学習した。
- ・教員を交えたグループを作り、簡単な連絡や雑談に活用する。
- ・授業で使ったプリントや正答を書き込んだプリント等を画像でやりとりする。



「LINE」 メッセージや画像の送信が無料でできる。無料スタンプが豊富にあるので簡単にメッセージを伝えることも可能であり、入力方法も多様である。

○ 対象児の事後の変化

① 学習に活用

- ・紙媒体とデータの使い分けの判断や資料の保存やデータ整理が上手くなり、必要な資料などを探す時間が短縮され、スムーズになった。
- ・授業中の意見交換が活発にでき、その発言から授業者には内容の理解ができていることがわかる。

② 自己理解・他者理解に活用

- ・録画した自分のビデオを見て、他者の意見を聞くことで「思っていたより緊張しやすいことや将来のイメ

ージをもって面接を受けることの大切さに気づいた」と発言があった。

③ 「LINE」の活用

- ・以前から利用しており、他の生徒をリードできた。
- ・学習に関するものでも確認・返信が早く、グループ内での情報交換をスムーズにしている。

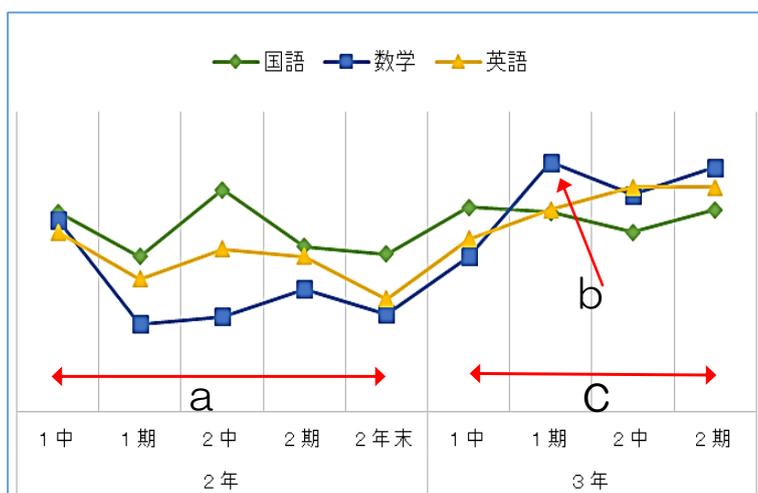
【報告者の気づきとエビデンス】

○ 主観的気づき

- ・資料整理や筆記を最小限にして、思考する時間を確保したことで学習の理解が深まった。
- ・自己理解には、クラスメイトなど他者の意見を受け入れながら自分自身で文章化することが有効だった。
- ・自分を認めることは、学習を含め生活全般によい影響を及ぼしている。

○ エビデンス(具体的数値など)

- ① LINEでの学習プリントの確認や、面接練習を通して自分の将来像が具体的に became ことで学習時間が増え、定期テストの点数・成績がアップした。〈図2〉



a：2年生では、授業中のミニテストの点数はアップしたが、定期考査の点数にはつながらなかった。

b：数学の高得点は、思考や全体を理解して回答を導き出すという得意分野であった。

c：3年生になり、学習方法が定着してきたことや自己理解を図るための学習を重ね、卒業後の自分をイメージできたことが学習意欲につながり、得点がアップしたと推察される。

〈 図2 主要3教科の定期考査結果の推移と考察 〉

- ② 録画した面接練習を見て自分を客観視し、他者から意見を聞く機会を持てたことで気づきがあった。回数を重ねるごとに自分を認める前向きな文章が増え、改善したい点についても文章化できた。〈表1〉

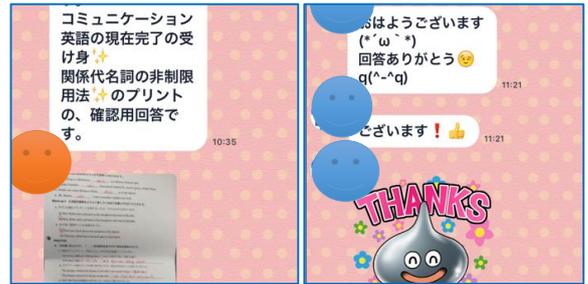
自己評価	クラスメイトの評価
反省するところが多くあり、まだまだだと思った。姿勢については、日頃から気をつけたい。	・全体的に自分と比べて冷静だと思った。自己PRなどは長所をしっかりと伝えていたように思った。 ・言葉が詰まりそうになったときに、膝を叩くことが多かった。
自己PR文章(抜粋)	
私は、高校生の時に生徒会長をしていました。そのため、人前に出て発表する機会が多く、少ししか緊張しなくなりました。また、話すときも分かりやすく伝えることができます。趣味は読書をするので、文章を作るのも得意です。 しかし、マイペースに物事を進めてしまうところがあり、そのため失敗することがあります。ですが、自分の性格を理解して、失敗しないように常に気を引き締める努力をしています。	

〈 表1 面接練習後の評価コメントと改善された文章〉

③ 他愛のない会話が楽しく、連絡を取りたいときには便利である。スタンプが多く使いやすい。(本人のアンケートより)

○ その他エピソード(画像などを含めて)

・「LINE」を活用して、教員が回答を書き込んだ学習プリントを画像で送信した。生徒からはすぐ返信があり、内容確認ができたことが分かった。生徒からも他校の学習発表会のプログラムなど前日に画像での送信があり、お互いが参加の予定を確認しやすく、また感想などを共有する際、参加していない者にも分かりやすかった。〈図3〉



〈 図3 「LINE」の書き込み 〉

・現在のクラスは、高等部3年間を一緒に過ごしたメンバーであり、お互いの個性を尊重しつつ、相手を思いやりながら意見を言い合える関係性ができている。担任は、『「ものの考え方や見方は多様にあるので、短所も見方によっては長所になり、失敗と思ったことも実は自分の成長には必要なことである』』と考えて、物事を肯定的に見て、自分や他人の言動を肯定的に受け止める意識を継続してもてるようになってほしい』との願いを、学級経営の柱にして取り組んでいる。生徒は、自分たちの関係について「いつも冗談や意見などを遠慮なく言い合っているが、そんなときでも言っているいいことと悪いことは無意識に線引きできていて、お互いが分かりあえているメンバー」と話しており、学習中の意見交換、休み時間の雑談ともに話し声や笑いの絶えないクラスである。面接練習を繰り返す中では、一人の意見に引っ張られることなく、他の一人は違う意見を出し、最終的にそれぞれが答えを探っていくという場面もみられた。

・今後は、生徒が希望している将来像に近づけるように進路先との引継を行い、これまでの取組や得意な学習方法などを伝えていく予定である。今年度の取組を生かして、自分自身で理解しやすい学習方法を他者に伝え、新しく学ぶ分野について理解を深めていってほしい。また、課題等に行き詰った時には「疲れた」と気軽に言える環境を残しておきたい。

魔法の宿題 プロジェクト 活動報告書・2

報告者氏名: 正木生子

所属: 高知県立高知若草養護学校

記録日: 2016年2月12日

キーワード: 肢体不自由 教科学習 自己理解 コミュニケーション

【対象児の情報】

○ 学年 高等部3年

○ 障害名 脳性まひ

○ 障害と困難の内容

- ・筋緊張のため、車いすでの座位姿勢は不安定になりやすく、上体が左右に傾きがちである。
- ・右手の緊張が強く、筆記や作業など左手で行っており、筆記等には時間を要する。
- ・視機能アセスメントでは、目と手の協応、模写、視覚運動動作などが苦手であった。また、近視・乱視が強く眼鏡着用時の両眼視力は0.2程度である。
- ・資料等の整理が苦手で、必要なものを探すことには時間がかかる。
- ・高等学校に準ずる教育課程で学年相応の教科学習を行っている。
- ・平日は寄宿舍を利用している。

【活動目的】

○ 当初のねらい

- ・授業内容の理解と定着を図る。
- ・自分にとって分かりやすい学習方法を理解し他者に伝えることができる。
- ・自分の考えや意見を、正しく述べることができるようになる。

○ 実施期間

2015年5月20日(水)より2016年2月10日(水)

○ 実施者

宮崎貴文、筒井伸、森光平、川村紀美、澤田暁

○ 実施者と対象児の関係

教科担当者、担任(数学A:週2時間、総合的な学習の時間・自立活動:週3~4時間、
現代文B:週3時間、コミュニケーション英語Ⅱ・英語会話:週4時間)、寄宿舍指導員

【活動内容と対象児の変化】

○ 対象児の事前の状況

- ・昨年度「魔法のワンド」の取組で、大幅な学習環境の改善を行った事例1の生徒と同じクラスで学習しているため、iPadなどのICTを活用した、生徒の困難を軽減するための配慮がなされている。筆記量を大幅に軽減したことで考える時間が確保でき、積極的に授業に参加し発言や生徒間での意見交換が活発になった。また、テキストや資料等をデータ化して配付することで必要なものがひとつに集約され探しやすくなり、時間と労力の短縮につながっている。
- ・筆記やキーボード入力には時間がかかるが、音声入力ではなく主にキーボード入力をしている。
- ・自分自身の見え方を把握しており、iPadで文字等の大きさやコントラストを調節したり、白黒反転したり、資料によって使い分けることができる。
- ・学校外では自分のスマートフォンを使っている。SNSは保護者の意向もあり利用していないが、生徒自身

には利用したいという意向がある。

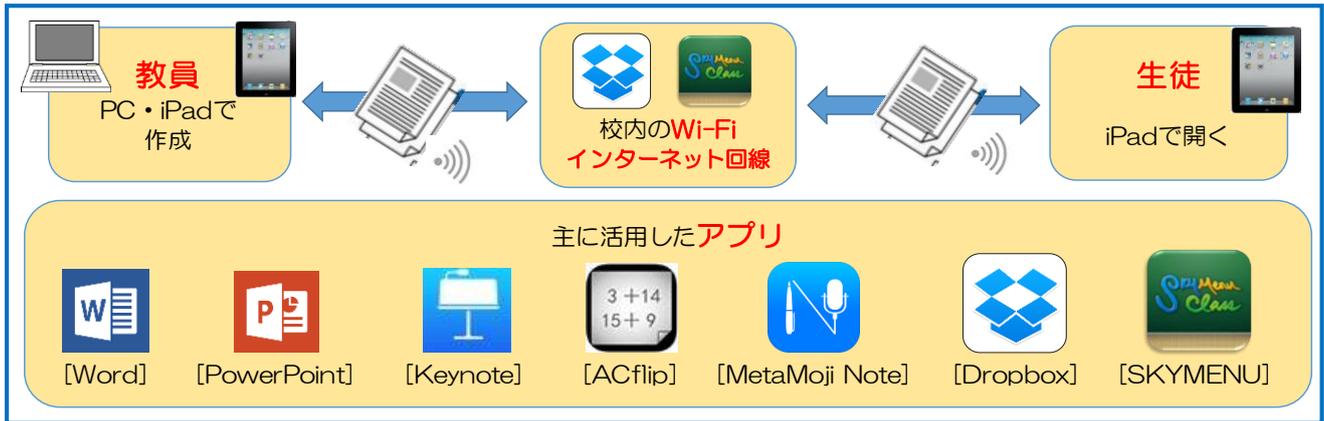
- ・学習環境に関することなど、自分の考えや思いを大人に伝え、要求することを遠慮してしまう。

○ 活動の具体的内容

① 学習に活用（昨年度から継続）

教科学習に関しては、数学 A、現代文 B、コミュニケーション英語Ⅱ・英語会話の全時間で実施した。昨年度の取組に引き続き、板書やプリントの作り方を確認、iPad のアプリを使って教材提示や資料配付、アンケートや話し合いで生徒の意見を取り入れることに取り組んでいる。

- ・教材提示や資料の配付には、「SKYMENU」「Dropbox」を活用。主に活用したアプリは「MetaMoji Note」「AC Flip」、「Keynote」などである。〈図 1〉



〈 図 1 iPad の活用方法と活用したアプリ 〉

② 自己理解・他者理解に活用

総合的な学習の時間や自立活動の時間に、自己理解を深めることに取り組んだ。教員は作成した資料やワークシートを「Dropbox」に保存し、生徒は自分の iPad を使って、主に「MetaMoji Note」で開いて入力保存する。希望進路先への志望理由書のなかで、自分の長所短所について考え、将来について考えた。

- ・文章の内容について検討し、発表のためのスライドを作成する。
- ・自分自身について考えたことや発表したことを、進路に向けた面接に活かす。
- ・練習にはカメラ機能を使って撮影、動画再生し、クラスメイトで意見交換して改善していく。

③ 「LINE」の活用

メンバーを限定したグループで気軽に連絡を取り合えるようにした。

- ・事前にセキュリティやマナーについて学習した。
- ・教員を交えたグループを作り、簡単な連絡や雑談に活用する。
- ・授業で使ったプリントや正答を書き込んだプリント等を画像でやりとりする。



「LINE」 メッセージや画像の送信が無料でできる。無料スタンプが豊富にあるので簡単にメッセージを伝えることも可能であり、入力方法も多様である。

○ 対象児の事後の変化

① 学習に活用

- ・筆記量の軽減によって、学習の本質である思考する時間を確保でき、発問に対してテンポよく答えることが増えた。
- ・「AC Flip」を使った授業では、生徒間での意見交換が活発になされ、クイズ感覚で答えを求めていくなど学習への意欲が高まり、授業者は生徒の発言から内容理解が深まっていると実感している。

② 自己理解・他者理解に活用

- ・自己紹介文の作成を通して、筆記やキーボード入力に労力を割くより、思考に重点を置くほうがよいという担任のアドバイスを受け、生徒自身が音声入力の活用などを試している。

③ 「LINE」の活用

- ・事例1の生徒のリードでスムーズに使い始め、保護者の理解と安心を得て、グループ内での簡単な連絡や雑談に活用している。

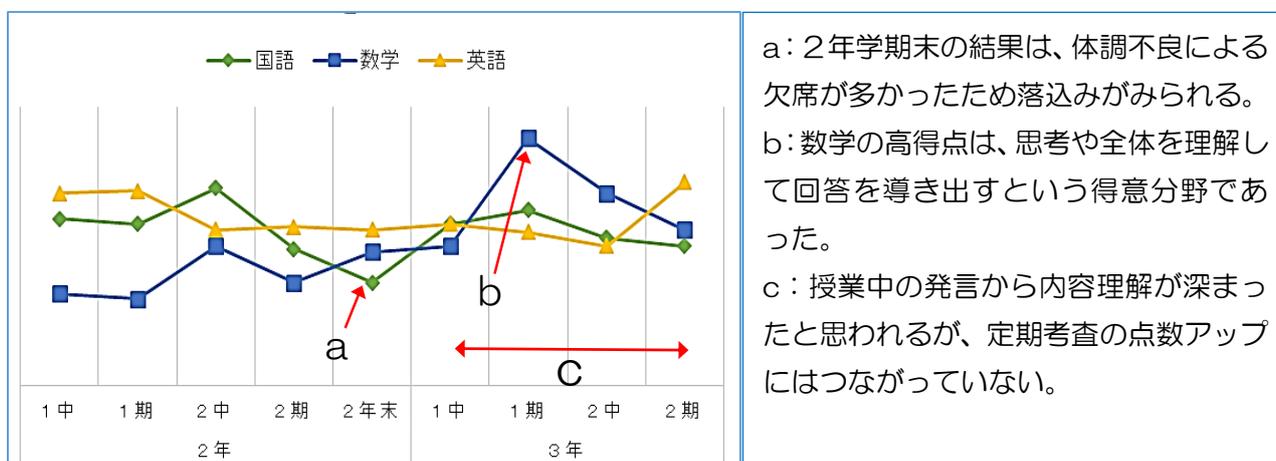
【報告者の気づきとエビデンス】

○ 主観的気づき

- ・資料整理や筆記を最小限にして、思考する時間を確保したことで学習の理解が深まった。
- ・自己理解には、クラスメイトなど他者の意見を受け入れながら自分自身で文章化することが有効だった。
- ・自分を認めることは、学習を含め生活全般により影響を及ぼしている。

○ エビデンス(具体的数値など)

- ① LINEでの学習プリントのやりとりは、確認しやすく便利であると発言があった。定期テストに大きな変化はなかったが、授業者は学習中の発言内容から理解度が深まったと実感している。〈図2〉



〈 図2 主要3教科の定期考査結果の推移と考察 〉

- ② 自分の短所に意識が向くことが多かったが、友人の意見で長所を認められていることに気づき、自分の長所をアピールする文章が増えた。〈表1〉

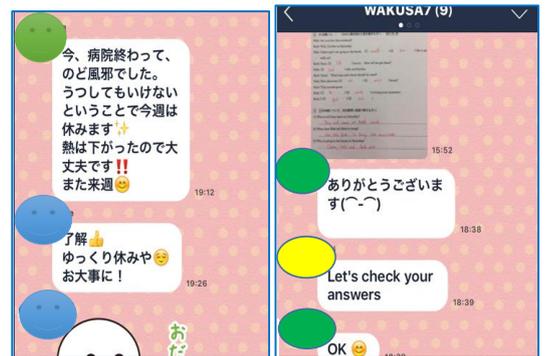
自己評価	クラスメイトの評価
緊張して言い間違い等もあり反省することが多かった。考えた回答を正確に言おうとしたことで、逆に詰まってしまう場面が多かったので、覚えようとし過ぎないことが大切だと思った。	<ul style="list-style-type: none"> ・言い間違いはあったが、言いたいことはしっかりしていたと思う。 ・経験したことから感じたことや学んだことを素直に表現できていると思った。
自己PR文章 (抜粋)	
<p>私は、気配りや誰とでも親しくなれるという長所があります。今年の体育祭の応援団ではみんなが主役になれるように考えて実行しました。また、みんなをまとめるにはコミュニケーション力が必要だと思うので、自分の長所が活かせました。</p> <p>私の短所は、考えすぎてしまうことです。人にアドバイスをいただいたり、相談するようにしています。</p>	

〈 表1 面接練習後の評価コメントと改善された文章〉

③ アットホームな空気感がいいと思う。一度に連絡できるので助かっている。スタンプで簡単に気持ちを送れるので便利。(本人のアンケートより)

○ その他エピソード(画像などを含めて)

・「LINE」を活用して、教員が回答を書き込んだ学習プリントを画像で送信した。生徒からはすぐ返信があり、回答が赤字で書き込まれているので見やすく、内容を確認しやすいとのことだった。〈図3〉



・思考したことを声にするという得意な方法を活かせるように、定期考査を代筆や機器を活用して受けるように提案したが、本人が「代筆を頼む先生に気を使ってしまっでできない」ということで他生徒と同じ条件で実施した。もっと早い段階から本人と話し合い、合意して取り組み、慣れていくことが大切であった。

〈 図3 「LINE」の書き込み 〉

定期考査の点数アップには繋がらなかったが、学習中の発言内容が評価されて、全教科の平均評定は少しずつ伸びている。

・現在のクラスは、高等部3年間を一緒に過ごしたメンバーであり、お互いの個性を尊重しつつ、相手を思いやりながら意見を言い合える関係性ができている。担任は、『ものの考え方や見方は多様にあるので、短所も見方によっては長所になり、失敗と思ったことも実は自分の成長には必要なことである』と考えて、物事を肯定的に見て、自分や他人の言動を肯定的に受け止める意識を継続してもてるようになってほしいとの願いを、学級経営の柱にして取り組んでいる。生徒は、自分たちの関係について「いつも冗談や意見などを遠慮なく言い合っているが、そんなときでも言っているいいことと悪いことは無意識に線引きできていて、お互いが分かりあえているメンバー」と話しており、学習中の意見交換、休み時間の雑談ともに話し声や笑いの絶えないクラスである。また、「小学校、中学校ともに名前と呼ばれていたため、ニックネームがついたのは初めてだった」と笑いながら話してくれるなど、メンバーのよい関係が伺える。面接練習を繰り返す中では、一人の意見に引っ張られることなく、他の一人は違う意見を出し、最終的にそれぞれが答えを探っていくという場面もみられた。

・今後は、進路先との引継の中で、生徒の長所が活かされる環境について伝えていく予定である。また、生徒自身には、遠慮しすぎずに、自分の得意や不得意、考えていることを伝えていくことを大切にしてほしいと願う。そして、「LINE」に関する本人のアンケート記述にもあるように、アットホームなつながり続け、気軽に気持ちを出せる環境を残しておきたい。